

都市再生整備計画 事後評価シート
分水地区第二期

令和4年3月

新潟県燕市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県		市町村名	燕市		地区名	分水地区第二期			面積	301ha	
交付期間	平成27年度～令和1年度		事後評価実施時期	令和2～3年度		交付対象事業費	323百万円	国費率	0.4			
1)事業の実施状況	事業名											
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路[市道島上幹線]、公園[大河津分水さくら公園]、地域生活基盤施設[排水路整備、地下式調整池整備]									
		提案事業	地域創造支援事業[新規イベントの開催、定住促進・まちなか支援事業のPR]、事業活用調査[大河津分水さくら公園周辺利活用促進調査、事業効果分析]									
	当初計画から削除した事業	基幹事業										
		提案事業	地域創造支援事業[新規イベントの開催、定住促進・まちなか支援事業のPR]、事業活用調査[大河津分水さくら公園周辺利活用促進調査]				・新規イベントの開催については、民間機運に委ねることとし、事業を削除する。 ・定住促進・まちなか支援事業のPRについては、市の単独事業として対応したため、事業を削除する。 ・大河津分水さくら公園周辺利活用促進調査については、民間企業から受けた提案を検討したものの採用に至らなかったため、事業を削除する。			・新規イベントの開催については、指標への影響は、他事業に比べて小さいことから指標の変更は行わない。 ・定住促進・まちなか支援事業のPRについては、事業は実施されているため影響しない。		
	新たに追加した事業	基幹事業										
提案事業												
交付期間の変更	当初	平成27年度～平成31年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし						
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	指標1	新興野地区排水対策の浸水回数	回/年	4	H21～25年度の平均	1	R1年度	0	○	あり なし	・調整池の供用(令和2年3月)後、当該地区での集中豪雨は発生していないため、実態に基づく評価はできない状況。 ・ただし、調整池は、当該地区の雨水が集約する大通川付近排水路の流下能力を条件に設計されており、対象降雨(平成20年7月28日の集中豪雨 時間最大雨量50mm、24時間で約86mmの降雨)相当の降雨があった場合でも浸水被害は発生しないと想定されるため、達成度を「○」とする。	-
	指標2	大河津分水さくら公園利用者数の増加	人/年	3,100	H25年度	4,600	R1年度	8,400	○	あり なし	・大河津分水さくら公園の休日の利用者数は、目標である4,600人/年を大きく上回る8,400人/年(確定値)となったため、達成度を「○」とする。	-
指標3	分水小学校区まちづくり協議会地区の世帯数の増加	世帯/年	3,010	H21～25年度の平均	3,050	R1年度	3,169	○	あり なし	・分水小学校区まちづくり協議会地区の世帯数は、目標である3,050世帯/年を上回る3,169世帯/年(確定値)となったため、達成度を「○」とする。	-	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
その他の数値指標1							-			-	-	
4)定性的な効果発現状況	・特になし											
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	-		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-				
	住民参加プロセス	・大河津分水さくら公園ワークショップ		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後もワークショップなど住民との意見交換の機会を積極的に設けて、住民の声をまちづくりに反映する。				
持続的なまちづくり体制の構築	・分水小学校区まちづくり協議会 ・NPO法人分水さくらを守る会		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も民間団体の自立的なまちづくり活動や公共空間の有効活用を支援する。					

様式2-2 地区の概要

分水地区第二期(新潟県燕市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標 「浸水被害が少なく、緑豊かな交流空間が充実し、魅力・活力にあふれる暮らしやすい市街地づくり」 目標1 地域住民の浸水被害に対する不安を払拭する雨水排水対策等による市街地の安心安全環境の向上 目標2 緑の空間を舞台とした地域住民等の交流機会、子育て世代への定住化の促進及び定住世帯等の確保	新興野地区排水対策の浸水回数	回/年	4	H21~25年度の平均	1	R1年度	0	R1年度
	大河津分水さくら公園利用者数の増加	人/年	3,100	H25年度	4,600	R1年度	8,400	R1年度
	分水小学校区まちづくり協議会地区の世帯数の増加	世帯/年	3,010	H21~25年度の平均	3,050	R1年度	3,169	R1年度



△大河津分水さくら公園【公園】



△島上幹線及び排水路整備【道路、地域生活基盤施設】



△調整池【地域生活基盤整備】

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 道路整備・浸水対策等による安全・安心な市街地環境づくりや、子育て世代の定住促進に係る継続的な支援等により、世帯数が増加した。 排水路や調整池等の整備により、対象降雨(平成20年7月28日の集中豪雨 時間最大雨量50mm、24時間で約86mmの降雨)相当の雨水では浸水被害は発生しないと想定され、浸水に対する安全性が向上した。 大河津分水さくら公園における、第一期での整備に加え、第二期の多目的広場や複合遊具、休憩施設(展望台)等の整備により、利用目的の多様化や公園の魅力が高まり、利用者数が増加した。 また、イベント会場として活用され、地域内外の交流が促進された。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 燕市移住家族支援事業、まちなか居住支援事業などによる定住促進に向けた居住支援事業の継続 まちなみルールづくりに係る活動支援などによる地域特性を活かした居住環境の形成 防災訓練の実施及び啓発、自主防災組織の活動支援などによる防災意識の向上(地域、学校等) きれいなしよいや燕(アダプト制度)などによる公共空間の適切な維持管理及び協働の推進 公共施設等の利用促進 イキイキまちづくり事業等による市民活動の活性化

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他(協定制度等の取り組み)		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道島上幹線	8	L=170m	7	L=167m	・事業執行に伴い事業量・事業費を変更(減額)する。	・事業は実施されているため影響しない。	●	
公園	大河津分水さくら公園	156	A=49.638㎡	63	A=49.638㎡	・遊具規模の見直しの舗装の変更を行ったため、事業費を変更(減額)する。また、上記の変更により施工期間が短縮されたため、事業期間を変更(短縮)する。	・事業は実施されているため影響しない。	●	
古都保存・緑地保全等事業									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	排水路整備、地下式調整池整備	200	L=340m	250	L=167m、 V=1,000㎡	・設置検討により軟弱地盤であるため、工法の変更を行ったが、その後追加対策をし、結果として事業費を変更(増額)する。	・事業は実施されているため影響しない。	●	
高質空間形成施設									
高次都市施設									
中心拠点誘導施設									
連携生活拠点誘導施設									
生活拠点誘導施設									
高齢者交流拠点誘導施設									
既存建造物活用事業									
土地区画整理事業									
市街地再開発事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
住宅街区整備事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	新規イベントの開催	4	—	—	—	・事業を削除	・指標への影響は、他事業に比べて小さいことから指標の変更は行わない。	—	—
地域創造 支援事業	定住促進・まちなか支援事業のPR	2	—	—	—	・市の単独事業として対応したため事業を削除する。	・事業は実施されているため指標に影響しない。	—	—
事業活用調査	大河津分水さくら公園周辺利活用促進調査	10	—	—	—	・民間企業の提案を受けた提案の検討を行ったが採用される案がなかったため事業を削除する。	・指標への影響は、他事業に比べて小さいことから指標の変更は行わない。	—	—
事業活用調査	事業効果分析	3	—	3	—	—	—	—	●
まちづくり 活動推進事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
定住促進・まちなか支援事業のPR		—	—	—	—	平成30年度～令和2年度	市の単独事業として実施	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	事後評価	事後評価	○	あり	なし				
指標1	回/年	R1年度の新興野地区の集中豪雨が発生した場合の浸水回数を計測し、評価値とする。			4	H21～25年度の平均	1	R1年度	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定 ●	0	事後評価	○			
									見込み							
指標2	人/年	公園管理者が集計している利用者記録より、R1年度の大河津分水さくら公園の休日の利用者数を計測し、評価値とする。			3,100	H25年度	4,600	R1年度	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定 ●	8,400	事後評価	○			
									見込み							
指標3	世帯/年	住民基本台帳より、R1年度の分水小学校校区まちづくり協議会地区の世帯数を計測し、評価値とする。			3,010	H21～25年度の平均	3,050	R1年度	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定 ●	3,169	事後評価	○			
									見込み							

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	・調整池の供用(令和2年3月)後、当該地区での集中豪雨は発生していないため、実態に基づく評価はできない状況。 ・ただし、調整池は、当該地区の雨水が集約する大通川付近排水路の流下能力を条件に設計されており、対象降雨(平成20年7月28日の集中豪雨 時間最大雨量50mm、24時間で約86mmの降雨)相当の降雨があった場合でも浸水被害は発生しないと想定されるため、達成度を「○」とする。	
指標2	・大河津分水さくら公園の休日の利用者数は、目標である4,600人/年を大きく上回る8,400人/年(確定値)となったため、達成度は「○」とする。	
指標3	・分水小学校校区まちづくり協議会地区の世帯数は、目標である3,050世帯/年を上回る3,169世帯/年(確定値)となったため、達成度は「○」とする。	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	モニタリング	事後評価		
その他の 数値指標1							モニタリング			
							事後評価	確定 見込み		
その他の 数値指標2							モニタリング			
							事後評価	確定 見込み		
その他の 数値指標3							モニタリング			
							事後評価	確定 見込み		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・特になし

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	<ul style="list-style-type: none"> 予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由) 		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
大河津分水さくら公園ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> 予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった (理由) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大河津分水さくら公園については、平成14年度に、住民代表14名とコーディネーター1名による大河津分水さくら公園ワークショップを計9回開催し空間デザインが取りまとめている。 ・本事業で実施した事業についても、住民参加で取りまとめた空間デザインを踏襲したものとなっている。 	今後もワークショップなど住民との意見交換の機会を積極的に設けて、住民の声をまちづくりに反映する。

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
分水小学校区まちづくり協議会	<ul style="list-style-type: none"> 予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった (理由) 	<ul style="list-style-type: none"> ・燕市の委託事業として、大河津分水さくら公園の草取りを実施しているほか、幹線道路の交差点付近に設置された花壇の花植え活動等を実施している。 	分水小学校区まちづくり協議会	今後も民間団体の自立的なまちづくり活動や公共空間の有効活用を支援する。
NPO法人分水さくらを守る会	<ul style="list-style-type: none"> 予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった (理由) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大河津分水さくら公園(平成23年供用)では、公園内の桜の手入れや『花の里づくり事業』として5月にヒマワリ、8月にコスモスの種まきを行い、美しい景観づくりの取組を進めている。 ・平成28,29年度には、公園近隣の園児や地域住民等と共同でヒマワリの種まきを実施しており、活動を通して地域住民が公園に愛着をもち、住民同士が交流するきっかけとなっている。 ・また、HPで活動情報や開花情報等を発信し、地域内外に分水地区の魅力ある豊かな自然環境をPRしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成9年に任意団体として設立した「NPO法人分水さくらを守る会」は、大河津分水路及び分水地区内の桜の保全活動や環境美化活動等を行っている。 	

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内意見照会	都市整備部土木課、総務部防災課	令和3年5～6月	都市整備部都市計画課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標1		指標2		指標3	
指標名		新興野地区排水対策の浸水回数		大河津分水さくら公園利用者数の増加		分水小学校区まちづくり協議会地区の世帯数の増加	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路:市道島上幹線	—	・調整池の供用後、当該地区での集中豪雨は発生していないため、実態に基づく評価ができない。ただし、調整池等の整備より対象降雨(平成20年7月28日の集中豪雨 時間最大雨量50mm、24時間で約86mm の降雨)相当の雨水では浸水被害は発生しないと想定されるため、指標に直接的に貢献すると考え、貢献度を「◎」とする。	—	・第一期での対象公園の整備に加え、第二期では多目的広場や複合遊具、休憩施設(展望台)等の整備が公園の魅力を高めた指標に直接的に貢献したと考え、貢献度を「◎」とする。	○	・対象地区内の島上幹線の道路整備が安全な歩行者空間を創出し指標に間接的に貢献したと考え、貢献度を「○」とする。 ・排水路や調整池等の浸水対策が豪雨に対する安全性を高め、指標に間接的に貢献したと考え、貢献度を「○」とする。 ・燕市まちなか居住支援事業のPR(パンフレットや広報誌、市HP等での制度紹介)が、制度の活用・子育て世代の定住を促進し、指標に直接的に貢献したと考え、貢献度を「◎」とする。
	公園:大河津分水さくら公園	—		◎			
	地域生活基盤施設:排水路整備、地下式調整池整備	◎		—			
提案事業	事業活用調査:事業効果分析調査	—		—		—	
関連事業	定住促進・まちなか支援事業のPR	—		—		◎	

※指標改善への貢献度

- ◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	・近年全国で頻発する自然災害や減災に向けた取組に注視しつつ、今後も快適で安全な都市基盤の整備に係る検討を行い、必要な整備を実施するなど、住みたい、住み続けたいと思える居住環境の形成に向けた取組を推進する。	・今後は対象公園をより多くの地域住民等に利用してもらえるように、イベント等の企画やPRを図る。	・今後も快適で安全な都市基盤の整備に係る検討を行い、必要な整備を実施するなど、住みたい、住み続けたいと思える居住環境の形成に向けた取組を推進する。 ・また後身の燕市移住家族支援事業・まちなか居住支援事業を引き続きPRし、定住促進を図る。
-------	--	---	---

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別										
指標名										
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業										
提案事業										
関連事業										

※目標未達成への影響度

- ××：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △：数値目標が達成できなかった中でも、
ある程度の効果をあげたと思われる。
- －：事業と指標の間には、もともと関係がないことが
明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)			

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内意見照会	都市整備部土木課、総務部防災課	令和3年5～6月	都市整備部都市計画課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
定住促進	・道路整備・浸水対策等による安全・安心な市街地環境づくりや、子育て世代の定住促進に係る継続的な支援等により、世帯数が増加した。		
安全・安心な市街地づくり	・排水路や調整池等の整備により、対象降雨(平成20年7月28日の集中豪雨 時間最大雨量50mm、24時間で約86mmの降雨)相当の雨水では浸水被害は発生しないと想定され、浸水に対する安全性が向上した。		
交流の場の整備	・大河津分水さくら公園における、第一期での整備に加え、第二期の多目的広場や複合遊具、休憩施設(展望台)等の整備により、利用目的の多様化や公園の魅力が高まり、利用者数が増加した。 ・また、イベント会場として活用され、地域内外の交流が促進された。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	定住促進	・定住促進に向けた居住支援事業の継続 ・地域特性を活かした居住環境の形成	・燕市移住家族支援事業 ・まちなか居住支援事業 ・まちなみルールづくりに係る活動支援
	安全・安心な市街地づくり	・防災意識の向上(地域、学校等)	・防災訓練の実施及び啓発 ・自主防災組織の活動支援(出前講座等)
	交流の場の整備	・公共空間の適切な維持管理及び協働の推進 ・公共施設等の利用促進 ・市民活動の活性化	・イベント等の企画及び運営支援 ・きれいにしよいや燕(アダプト制度)による美化活動支援 ・イキイキまちづくり事業等による住民主体のまちづくり活動支援 ・YOU-GO(融合)支援事業等による地域内外の交流促進活動支援

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策			

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5ー参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5ー④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2ー①、2ー②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2ー①、2ー②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	新興野地区排水対策の浸水回数	回/年	4	H21～25年度の平均	1	R1年度	確定 ●	0	○	あり	→	-	-	-
							見込み							
指標2	大河津分水さくら公園利用者数の増加	人/年	3,100	H25年度	4,600	R1年度	確定 ●	8,400	○	あり	→	-	-	-
							見込み							
指標3	分水小学校区まちづくり協議会地区の世帯数の増加	世帯/年	3,010	H21～25年度の平均	3,050	R1年度	確定 ●	3,169	○	あり	→	-	-	-
							見込み							
その他の数値指標1							確定				→			
							見込み							
							確定				→			
							見込み							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	—	・災害リスクの軽減など実際の事業効果を把握することが難しい場合は、定性的な評価などを含めた総合的な評価が望まれる。
	うまくいかなかった点	・指標1「新興野地区排水対策の浸水回数」の評価値について、事業完成後に浸水被害を引き起こす規模の局的豪雨が発生しておらず、実態に基づく評価ができなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	—	—
	うまくいかなかった点	—	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・大河津分水さくら公園の整備にあたり、住民ワークショップの結果を整備計画に反映したことにより、公園に対する愛着が高まり、地域住民による日常的な利用やイベントに繋がったと考えられる。	・事業実施にあたっては、住民などの関係者ニーズを把握する機会を出来る限り設け、そのニーズを整備内容に反映することが望まれる。
	うまくいかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	—	—
	うまくいかなかった点	—	
その他	うまくいった点	・今回の評価委員会は、燕地区、分水地区第2期、県央大橋西詰周辺地区の3地区合同で実施されたため、3地区の連携(拠点間の周遊)について意見があるなど、広い視野を持って評価が行われた。	・評価委員会の開催にあたっては、より効果的な審議がなされるよう、委員の選定や開催のタイミングなどを工夫することが望まれる。
	うまくいかなかった点	—	

添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の交付金の活用予定
令和5年度より燕地区都市構造再編集集中支援事業を実施する予定である。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市ホームページでの公開	令和3年12月22日(水) ～令和4年1月7日(金)	令和3年12月22日(水) ～令和4年1月7日(金)	郵送 ファックス 電子メール 直接持参	都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他	都市計画課窓口での閲覧	令和3年12月22日(水) ～令和4年1月7日(金)	令和3年12月22日(水) ～令和4年1月7日(金)		

住民の意見	・意見なし				
-------	-------	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	樋口 秀 委員長（新潟工科大学教授）	令和4年1月13日(木)	都市計画課	社会資本整備総合交付金 評価委員会要綱	燕市都市計画審議会
その他の委員	小林 理恵子 副委員長（市民代表） 鈴木 則昭 委員（新潟県三条地域振興局地域整備部長） 田野 隆夫 委員（燕商工会議所会頭）				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に沿って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・指標3「分水小学校区まちづくり協議会地区の世帯数の増加」について、人口ではなく世帯数を指標とした理由を問う意見があった。
	実施過程の評価	・特になし
	効果発現要因の整理	・特になし
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案の公表方法は妥当であると認められた。
	その他	・分水地区は他の地区よりも地域のまとまりの良いことが、高評価の一つの要因との意見があった。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・特になし
	フォローアップ	・特になし
	その他	・大河津分水さくら公園の整備に関して、インフラ整備がイベントにつながり、また次のインフラ整備につながるといった、うまく循環している成功例であるとの意見があった。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。